

鮫神楽 伝統脈々と

八戸

連中、保存会が後継者育成 発表会盛況

県無形民俗文化財「鮫の神楽」を受け継ぐ若い舞い手らによる恒例の「鮫神楽発表会」が8日、八戸市の鮫町生活館で開かれた。鮫神楽連中(細川清代表)、鮫神楽保存会(榎谷伸夫会長)の支援を受け稽古に励む小中高生に加え、大学生も出演。住民ら約120人を前に研さんの成果を披露した。(新村菜穂)

連中が笛や手びらがねを鳴らす中、児童生徒たちは30余り伝承されている演目のうち、「三番叟」「剣舞」などを次々披露した。中学卒業後に神楽から離れる生徒が多い中、川端真衣さん(八戸水産高1年)は受験勉強を終えて練習を重ね、共に舞を習う中高生3人と「一番楽」をきりと演じた。川端さんは「伝統をつなぐため役に立ちたい気持ちはあるけれど、何より神楽が好きで楽しい」と笑顔を見せた。

千葉県から帰省中の小西佑典さん(流通経済大2年)は2年ぶりの出演ながら、組舞「五条橋千人切」の弁慶役で、長年ともに演じてきた丑若丸役の畑中大河さん(八戸学院大2年)と息の合った演技を披露し、大きな拍手を浴びた。

鮫神楽について小西さんは「離れていても地元はここ。コンスタントにやっていたい」と、畑中さんは「一人でできる舞は完璧にしたい。東北、東日本で、もっと多くの人に鮫神楽を知ってもらいたい」と、伝統継承への意欲を語った。